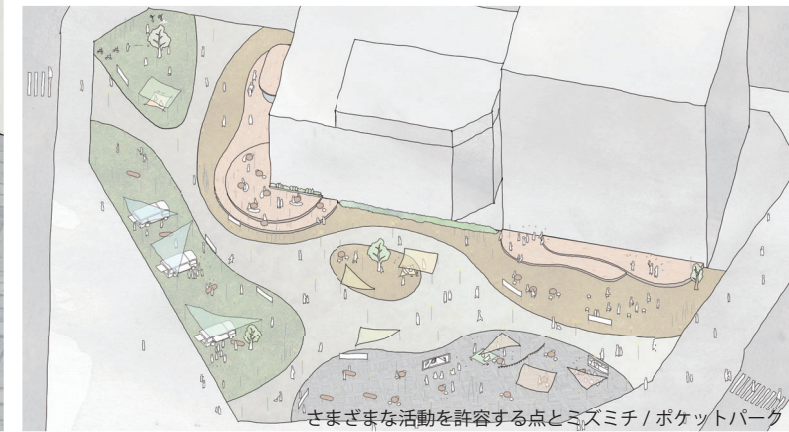
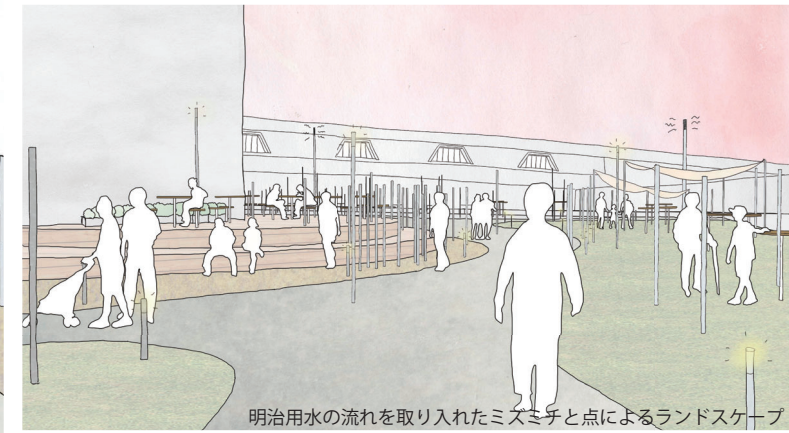
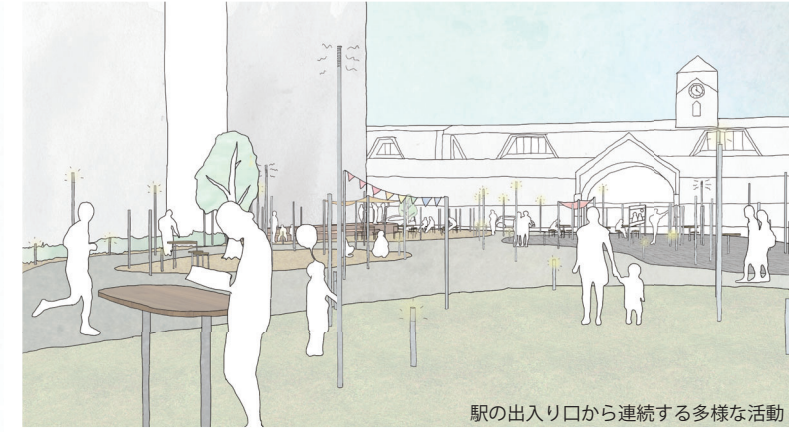


三河安城のホワイエ

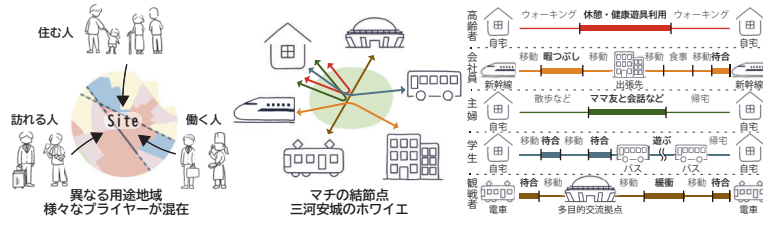
- 賑わいの流れと淀みをつくる点 -



コンセプトとその設定理由

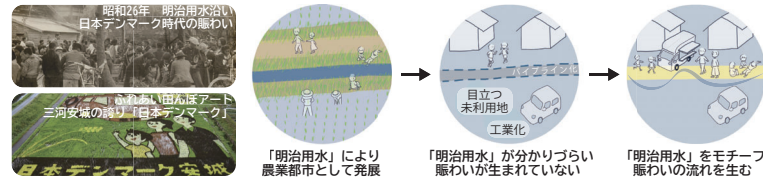
01 三河安城のホワイエをつくる

敷地は在来線及び新幹線の三河安城駅の駅前にあり、2026年建設予定の多目的交流拠点と駅を結ぶ中間に位置していることや、異なる用途地域が近接していることから来訪者の他に地域住民や働いている人など様々なプレイヤーが活動しているエリアであることからマチの結節点としてポテンシャルのある場であると考えます。そのような場所の性格から公共交通機関の「符合」やスポーツ観戦前後の高揚感をコントロールする「緩衝」、仕事や家事、趣味などの「余暇」を楽しめる場所が必要であると考えます。そこで、「符合」「緩衝」「余暇」の行為と時間に着目し、パシオやヒト、コをつなぎ、活動を促す【三河安城のホワイエ】をつくりたい。



02 明治用水をモチーフとした三河安城らしさのある場

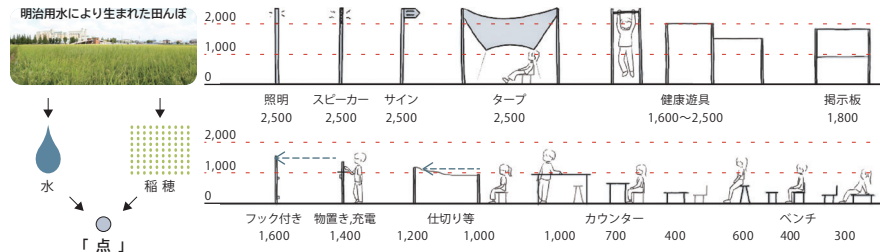
安城市は地理的条件から工業色も強いですが、明治時代に開削された「明治用水」によって「日本デンマーク」と呼ばれるまでの農業地帯に発展した歴史があります。現在でも田園風景が広がり、盛んに生産されている一方で、農地は徐々に工場へと変わっていることや部分的にパイプライン化されていることから、マチの発展の礎を築き、市民の生活に寄り添う「明治用水」が分かりやすい状況にあります。また、敷地である矢野公園や駅前にはマチの象徴として水に関するモニュメントや滝、池があるにもかかわらずあまり認識されていません。そこで、「明治用水」をモチーフに場をつくることで、三河安城のアイデンティティを高めると同時に、賑わいの流れをつくりたい。市民の遊歩道として親しまれている明治用水路と連続させることで賑わいの波紋を拡げます。



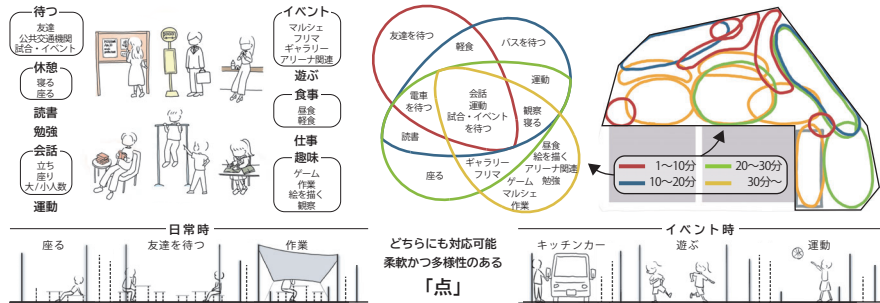
機能実装のイメージと説明

03 スケールや機能を横断し、流れと淀みをつくる三河安城の点

三河安城の発展の礎を築いた「明治用水」から水と稲穂をモチーフとした「点」により構成された場を提案します。様々な行為や機能に合わせて長さや太さを変えた「点」を基準に、屋根、ベンチ等のファニチャーやタープなどの仮設物を付属することでシンプルかつ多様な空間と利用者の活動をサポートする場をつくりたい。

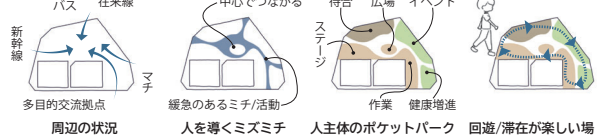


はじめに、想定される行為及び滞在時間を敷地内外の場所の特性から読み取り、この場所に相応しいゾーニングを行います。次に、設定したゾーニングに機能が付加された点の特性や点の関係性や距離、日常時とイベント時を考慮しながら配置することで適切な場を形成します。複数の「点」による活動は場に流れと淀みをつくり、人を呼び込みます。また、固定と動かせる「点」を組み合わせることで、イベント時には広い場を確保したり、客席を増やすなど様々な活動に応じて柔軟に対応することができます。



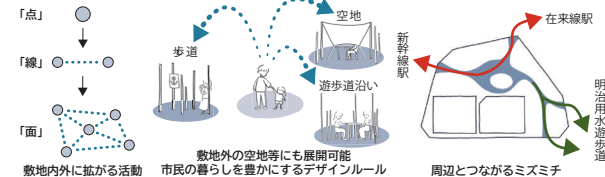
04 みんなのミスミチとポケットパーク

市民に親しまれている明治用水のようなミチ（ミスミチ）を敷地内に引き込むことで回遊性と滞在性を高めます。周辺の環境や状況、場所の性格に合わせて出入口や形状、幅などを設定し、マチとシームレスな場をつくりたい。また、一体的ながらミスミチによって幾つかの島状に分けることでヒューマンスケールのあるポケットパークをつくりたい。大きな空地やヴォリュームが目立つ三河安城駅前、人が主体的なサイズの場を設けることで、快適に利用しやすく、つかう活動を加速させる場をつくりたい。各々のポケットパークに異なる性格を持たせることで、分りやすさと島をめぐめる楽しさを得ることができ、全体としては利用者の状況に合わせて場所を選べる自由度と多様性のある場になります。



05 広域に拡がる点、マチと連続するミチ

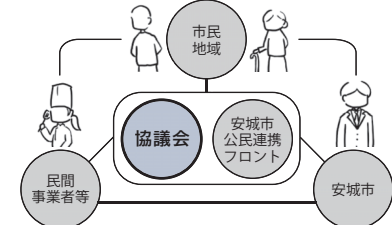
シンプルで分りやすく、最小の空間単位である「点」から生まれる活動は線や面となり、賑わいが敷地外にも拡がっていきます。マチの空地や遊歩道沿いなど広域に拡げられるポテンシャルを持ち、市民の活動を促し、補助するランドマークとして、マチのデザインルールに適用できます。例えば「アンフォーレ・ウォーキング協会」や「エコりんりん」等の市民共益活動団体主催のイベントの各コースポイントに適用することで活動や暮らしを豊かにし、点在することで連続性や秩序があまりないマチに統一感を与えてくれます。マチの玄関口である駅や周辺の明治用水遊歩道とミスミチを連続させることで、マチの延長として駅とマチ、人や活動をつなぎます。



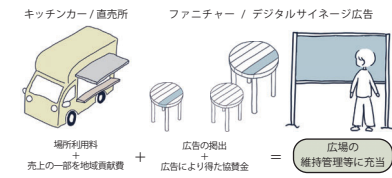
設置・運営に係る基本的な考え方、計画

06 多様な主体が連携して賑わう健康なまちづくり

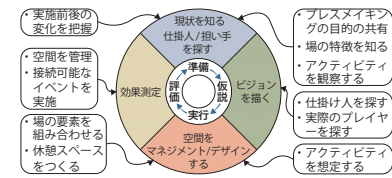
■多様な主体が連携する体制
本計画の設置や運営にあたって、質の高いサービスの継続的な提供や整備をするため、市で取り組んでいる公民連携を推進します。はじめに、市民・民間事業者等・行政をつないでいる既存の「安城市公民連携フロント」と連携してマチのデザイン専門の「協議会」を設立します。マスタープランの方向性は堅持しつつも、本敷地を含め、様々な場所のプロジェクトを先行的に進め、具体的なまちの変化を通じて市民や民間の様々なステークホルダーを巻き込み、共有や発信ができる体制を構築します。



■持続可能な運営
公民連携及び多目的交流拠点との連携を前提にまちづくりを進め、お互いがもつヒト、モノ、資産を活かして利益を生み出し続ける持続可能なまちづくりをします。具体的には、賑わいの核となるキッチンカーや直売所の売上の一部を地域貢献費として運営に使える仕組みを構築することや、広告の掲出と広告により得た協賛金を維持管理に充当するなどが考えられます。



■一人ひとりが豊かさや幸せを実感できるマチ
また、4年後の完成を目指して4つのステップを繰り返しながらプレイスメイキングを行っていくことでマチを使う取り組みを加速させ、賑わいのある持続可能なマチを一緒につくっていきます。主体となる利用者や各企業も各工程でコミットし、計画及び整備内容に反映される仕組みとします。整備は上記のステップを踏みながら段階的かつ柔軟に行います。



■SDGs未来都市として
地産産物若しくは連携している長野県根羽村木材の積極的な活用やワークショップ等を行います。また、経済・社会・環境の3側面に関連するイベント、PR、事業を行い、ウェルビーイングな脱炭素社会やSDGsの実現に参画します。

